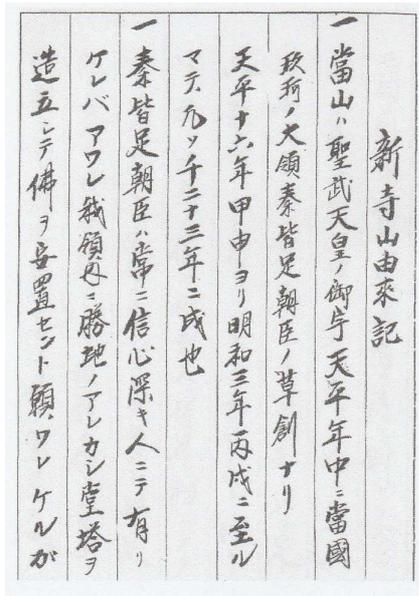


幡次郷 はたす き		三次市 1		
幡多郷 はた	波多 発多		岡山市 1	三原町 1
秦原郷 はたは ら	波多波良		総社市 1	
八太郷 はた	波多			温泉町 1
服織郷 はたお り		福山市 1		
合計		2	2	2

『古代地名大辞典』『日本古代地名事典』には、山口県の『和名抄』の記録は収録されていない。『和名類聚抄』は、平安時代の承平年間(931～938)、勤子内親王の求めに応じて源順(みなもとのしたごう)の編纂である。比較地名学で使用できる最古の史料である。608年の『隋書倭国伝』の記録と330年の開きがあるが、ここから推定しなければならない。



山田安業氏は周防説である。備前西大寺縁起に関連し、周防の二井寺山極楽寺(山口県岩国市周東町上久原神幡)の新寺山由来記(明和3年・1766)に「天

平年中(729～749)に玖珂ノ大領秦皆足朝臣ノ草創ナリ」と記録されている。しかし、『和名抄』(931～

938)には記録されていない。つまり、938年には畑地名を残し、秦氏は移動している。608年の『隋書倭国伝』の時代には渡来していなかったことになる。

以上の調査結果により、秦王国所在地は『平城宮跡出土木簡』が出土している備前国上道郡幡多郷となる。『出土木簡』に「(表)備前国上道郡幡多郷秦老人庸米三斗、(裏)秦忍山米二斗并五斗」とある。郷域を1739年成立の『備陽国誌』には近世の「清水・赤田・高屋・沢田・関・山崎・円山各村の地域」とし、1721年成立の『備陽記』は「藤原・湊」を追記し

ている。明治22年(1888)に、関・赤田・藤原・高屋・兼基・今谷・清水・沢田が合併し、幡多村となり、昭和29年3月(1954)に岡山市へ編入合併された。

3 720年の記録『日本書紀』弓月君

『日本書紀』は、日本に伝存する最古の正史で、六国史の第一である。舎人親王らの撰で、養老4年(720)に完成した。神代から持統天皇の時代までを扱う。全30巻。『日本書紀』巻の10

応神天皇14年に「弓月君を祖とし、百濟より百二十県の人を率いて渡来した」と記録されている。重要なのは秦氏との記録が無いことである。

あくまでも弓月からの渡来である。渡来の経緯は、応神天皇14年に弓月君が百濟から来朝して窮状を天皇に上奏した。弓月君は百二十県の民を率いての帰化を希望していたが新羅の妨害によって叶わず、葛城襲津彦の助けで弓月君の民は加羅が引き受けるという状況下にあった。しか

